

図書館ニュース

No. 10

1968

43・6・20・発行

発行人 園田 義道

発行所 東京都文京区白山5丁目28番の20号 東洋大学附属図書館

勅賜屏風書表并詩
 汝門空海言去六月廿七日主殿
 布勢海野五彩吳綾錦縁五尺屏風
 四帖到山房來奉宣聖旨空海書
 兩卷古今詩人秀句者忽奉天令驚
 悚難喻空海聞物類殊形事群分體
 舟車別用文武異文若當其能事則
 通快用共其直雖勞無益空海元就
 觀牛之念久絶返鵲之喜遠夜教息
 誰勞穿破終日倦心何能墨池人非
 曹喜談對漢室之郎欲歸不能強揮
 龍管古人筆論云書者散非但以也

通照發揮性靈集序
 西山禪念沙門真澄撰集
 余少小也頗貴先代之風志學之後
 樂寂歷而不屑此事仰諸人之嚮行
 歟夫道之大妙爰有一上人芳曰大
 邊照全則青襟攝槐林之春秋終悵

遍照發揮性靈集 卷第一 序文冒頭の一葉 卷三の冒頭(解説は5頁)

清朝実録

常務理事 大島 昌 静

東洋大学に行ったら是非清朝実録に会いたいと念願していたが、先日それを果して初対面なのになつかしかった。

清朝実録は愛親覚羅氏清朝の洪翰の書であることも耳新しかったし、まして片見もしていなかったが、康熙、乾隆の二大帝をかゝえ文運も栄えた時代なので興味はもてた。

昭和九年満洲国が成立すると愛親覚羅氏は建国の記念として清朝実録を復刻し、これを締盟諸国に贈ることとし、その編集出版の任を依頼されたのが、拙兄小野玄妙であった。当時小野は二十余年におよぶ大正一切経や南伝大藏経の出版をほぼ終えて、高宗の四庫全書出版に意欲をもやしていた時であったから、その小手しらべの様な気でこれを引受け、昭和十三年にこの牛棟の書の出版を終えて満洲国帝室に納入した。勿論限定出版であり、贈られたのも締盟国だけにかぎられたので、日本でも国立図書館はじめ数ヶ所にすぎないと思うので、私学の図書館にまではいらなかった。満洲帝室の注文故に相当慎重に扱ったのだが、製本の過程に於て一部に一大ミスをして納入出来なくなつたのを願ひ出て小野が私物すけた。一部といつても大量のものであり、小野は私物することをさけて、私と相談の結果自らも教鞭をとり私にもつながら本学の図書館に寄贈したという訳である。小野は昭和十四年春この出版物を納入報告のため満洲国に行き、かたがた四庫全書出版準備のために北支中支を巡り、五月帰朝したが、数日にして過労のためたおれて二日にして冥目した。そんな思出のために未見のこの書がなつかしかった訳である。

東洋大学図書館報告

(統計/昭和42年度)

図書資料購入報告書 昭和42年度

費 目	予 算 額	支 出 額	備 考
経 常 費	36,550,000	36,603,538	△ 53,538
図 書 購 入 費		23,939,316 (2,051,000)	内 国 8,182,675 (300,000) 外 国 15,756,641 (1,751,000)
重松文庫購入費		2,250,000	
雑 誌 購 入 費		7,838,412 (3,190,700)	内 国 1,963,267 外 国 5,875,145 (3,190,700)
新 聞 購 入 費		209,310	内 国 125,880 外 国 83,430
そ の 他 資 料 テ ー プ		2,366,500	

備考：括弧内数字は文部省助成金

図書館業務報告書 昭和42年度

第1表 増加図書資料表

種 別 区 別	図 書			雑 誌			新 聞			そ の 他		
	購入	寄贈	計	購入	寄贈	計	購入	寄贈	計	購 入	寄 贈	計
内 国 書	5,402	3,362	8,764	292	858	1,150	11	22	33	マイクロ 529		マイクロ 529
外 国 書	3,631	730	4,361	409	47	456	2	3	5	マイクロ 24 テープ 78		マイクロ 24 テープ 78
計	9,033	4,092	13,125	701	905	1,606	13	25	38	マイクロ 553 テープ 78		マイクロ 553 テープ 78

備考：購入図書に重松文庫含まず

第2表 図書整理冊数

月	42 4	5	6	7	8	9	10	11	12	43 1	2	3	合 計
冊 数	2,804	1,866	2,682	493	233	2,369	2,455	1,798	1,598	2,269	2,572	1,996	23,135

第3表 マイクロ・エレファックス・ゼロックス業務表

申 込 者 数	収 入 額	支 出 額
4,920	1,710,570	1,340,570

第4表 図書館利用統計表

種別 室別 開館 日数	入館者数								館外貸出			
	第1閲覧室		第2閲覧室		参考室		雑誌室		第1閲覧室		第2閲覧室	
	227		249		250		189		246		(学生) 197	(教職) 221
学部別	入館者 数	1日 平均	入館者 数	1日 平均	入館者 数	1日 平均	入館者 数	1日 平均	利用者 数	1日 平均	利用者 数	1日 平均
文学部	16,391	72.2	19,219	77.2	5,920	23.7	3,821	20.2	663	2.7	4,749	24.1
経済学部	9,967	43.9	6,126	20.6	3,089	12.4	3,168	16.8	94	0.4	1,104	5.6
経営学部	12,752	56.2	7,542	30.3	1,683	6.7	3,385	18.4	124	0.5	928	4.7
社会学部	8,074	35.6	7,569	30.4	2,218	8.9	3,333	17.6	122	0.5	1,970	10.0
法学部	11,134	49.0	10,996	43.7	2,067	8.3	4,383	23.2	36	0.2	1,620	8.1
大学院	305	1.3	218	0.9	240	1.1	112	0.6	69	0.3	992	5.0
短大	5,082	25.5	6,461	25.9	1,189	4.8	441	2.3	65	0.3	1,231	6.2
教職員									1,438	6.5	470	2.1
その他	102	0.4			42	0.2			16	0.07	144	0.9
合計	63,807	281.1	58,131	229.0	16,448	65.8	18,643	99.1	2,627	10.67	13,208	(人) 66.7

* 第一閲覧室、参考室、雑誌室の入館者数は月一度の調査による。その他の利用者には校友が多い。

* 第二閲覧室、参考室、雑誌室は3月閉館

本学図書館の夏期休暇中の開館について

期間 7月1日～8月31日迄（但し土、日は除く）10時～19時30分迄

場所 参考室、第二閲覧室のみ * なほ休暇中の貸出も致します。

おしらせ

国立国会図書館増築工事にとまひ、下記のとおり閲覧業務を休止いたします。

	開室	閉室	備考
6月27日（木）から 8月17日（土）まで	下記以外の 閲覧室 資料室	新聞雑誌閲覧室（ただし、 新着新聞雑誌の閲覧は休 止せず） 夜間の特別閲覧室	図書館貸出し・複写製本済み 新聞雑誌についてのみ休 止、他は平常どおり行なう

① 8月18日以降は、増築部分への移転ならびに既設部分の改装工事等のため、約1ヵ月ほど閲覧業務の全面休止が予測されますが、工事工程の確定をみたくて追ってお知らせいたします。

② 支部上野図書館、支部静嘉堂文庫、支部東洋文庫の閲覧は、平常どおり行ないます。

③ なお、細部については、総務部総務課（電話581局2331内線-209,210）までお問い合わせ下さい。

昭和43年3月

東京都千代田区永田町1丁目10番1号

国立国会図書館

* 6月27日（木）以降

もと本学の教授であった故鈴木栄太郎博士の著作集（全六巻）が刊行され、その第一巻が五月末にできた。三八〇頁のずっしりと重い本である。微力な編集者の一人として、まだ生前に先生から教えをうけた一人として、その感激は深い。「……従来のアカデミズムにも反旗をひるがえし、反権威主義で本場に第一級の著作を発見しよう。いい著作にほれこんで、いい仕事を時間をかけて掘りおこす。それが日本文化の水準を高めることにつながる。」未来社西谷氏の方針である。この未来社が困難な学術書の全集出版をこともなげに引受けてくれた。勇氣のいることである。せめて論文集でもと願っていたわれわれは、この充実した好意に対して、具体的な編集としての努力を傾けた。

まず、先生の論文を手元を集めることからはじめられた。主要著作は別として、「日本農村と家族の調査ノートとモノグラフ」「朝鮮社会」に関する諸論文は、戦前、戦後にわたる激動の中で失われてしまったものが多かった。岐阜、北海道、京城関係とその資料を紹介してもらい、また編集人自身で渉猟してある

いた。もう一つの編集上の問題は、先生の古い表現法で書かれている著作、論文の文章表現をどうするかということであった。これについては、出来るだけ原文を尊重し、われ

われ編集人の間で、用語表記の現代化だけの統一をはかることに決めた。これらの編集の仕事をとおして、かつて先生が教授として在職された岐阜高農（いまの岐阜大学）、北海道大学の同窓生の示された協力に対しては、令更ながら鈴木先生の人の徳のあとが偲ばれ、感銘をうけることが多かった。

先生の日本社会学の建設者としての足跡は余りにも著名である。先生は戦前、戦後を通じて一貫して実証的精神に徹して調査研究を続け、日本社会の解明に努力をしてきた社会学者である。日本社会の実証的研究は戦後ようやく一般化した。しかし、そうした動きの根は、戦前、理論社会学全盛のなかに独自の途をきりひらかれた数少ない先学の努力によって培われている。鈴木先生の「日本農村社会学原理」は、いわばその主根であった。それはまた日本農村社会学の真の発足を示す道標であると共に、日本社会学史上不滅の金字塔でもある。「朝鮮社会」についての研究も、体系化こそなされていないが、稀少価値をもつ業績である。戦後、北海道にあって病魔と闘いながら

鈴木栄太郎著作集について

——編集者の感想——

生れた「都市社会学原理」も、晩年における「国民社会学」の構想が、そのなかに用意されているだけに、都市社会の解明のみならず、わが国の社会構造分析にとつて不可欠な業績である。「日本の社会学を一举に国際的水準に置いた」これら一連の研究はいづれも地道な実証に裏づけられている。しかも絶えず一般化、概念化への努力がなされ、社会科学方法論への反省と提言をわれわれの新しい研究の展開のうえに示してくれる。

このような先生の学者としての輝かしい業績も、決して平坦な生活によって支えられたものではなかった。先生は明治二十七年長崎県豊岐島に生まれたが、幼くして父と死別、一家は対島へ移住し、第一高等学校へ入るまでの少年時代をその辺土のなかですごされた。東京大学、京都大学で社会学を学ばれるが、そこでのテーマは「国家論」であった。その後、岐阜高農、京城帝大、戦後は北海道大学へ教授として赴任され、最後に、七十二歳で病没されるまで、東洋大学にあって大学院の指導にあたられていた。この間にあって、岐阜高農では先の「日本農村社会学原理」を生み、北大では生死を往來するような重態のくり返しなかで、「都市社会学原理」が完成した。先生の社会学徒としての出発が「国家論」であり、晩年、先生的情熱をかきたて、死に至るまで没入された研究が「国民社会学」であった事も、また何か学者としての一筋の厳しい執念を感じるのである。

先生の東洋大学での講義は、数少ないものであったが、ふりしぼるように語りかけられる調律には、先生の冷徹な論理とは異り、むしろ雄渾な叙事詩のひびきがあった。そこには何よりも日本人の独創性を信じ、日本人による日本社会の研究を期待しておられた先生の想いがこめられていたようである。

家族、村落、都市、国民社会と展開していく先生の業績は、この著作集六巻に集成されてゆくことになる。私はこの著作集の編集者としてこれら学問的意味の理解のほかに、その行間に脈々として波うっている創始者の精神が、広く読みとられることが出来るならばと、ささやかなのぞみと祈りをもつものである。

（図書館所蔵 361.48）

社会学部助教授 藤木三千人

から書重貴

平安朝初期における唐文化の影響は著しく、文芸方面においては、漢文学の隆盛となつてあらわれ、勅撰漢詩集があいついで撰進された。この期には平城・嵯峨・淳和の三帝を初めとして、有智子内親王・小野岑守・篁父子・菅原清公・空海などの著名な漢詩人が輩出した。その中、学問僧として知られる空海(七七四-八三五)は、讃岐国多度津郡(香川県善通寺市)に生まれ、一五歳のとき伯父、阿刀太足(あとうおたり)に就学し、一八歳のとき太足に伴われて大学に遊学して、味酒(あじゆ)淨成(じやうせい)から毛詩・左伝・尚書などを、岡田牛養から左氏春秋を学んだという。その後二四歳のとき『三教指帰』を著わして出家し、その年、橘逸勢・最澄らとともに長安に赴き、惠果からインド伝来の密教の大法を残らず直伝され、大同元年八〇〇帰朝、真言宗の開祖として高野山金剛峰寺を開いた。詩文と書法に卓越していて嵯峨天皇の信任厚く、弘仁一四年(八三三)東寺を賜り鎮護国家の道場とし、天長五年(八二八)には我国初の庶民学校、綜芸種智院を設立した。この間、宗教活動の外、多くの著作を残して、承和二年(八三五)高野山で入滅した。著作に当つては、多くの漢籍・仏典を駆使しており、彼の読書と教養の深さを窺い知るに十分である。また、空海にまつわる説話は『今昔物語集』を初めとして、多くの

説話集に収められているが、それらの典拠の大部分は、彼の著作と彼の高弟の編纂した『性霊集』の中に求めることができる。

『性霊集』は、詳しくは『遍照發揮性霊集』といい、空海の漢詩文を高弟の真澄(しんじやう)(八〇〇-八六〇)が編纂したものである。その年次は、序文から、空海の在世中であつたことは確かで、天長四年(八二七)から承和二年(八三五)までの約八年間と推定される。もと十巻であつたが、いつの世にか巻八の十の三巻が散佚してしまい、承

「ショウリョウシュウ」と通称しているが、「セイレイシュウ」が正しいともいわれる。編纂の事情は、序文に「折りに触れて詩賦・碑文・諷諭文・表白文・文書などを、草稿もなく製作されるので、直ちにこれを筆記しておかないと、再び看ることができなくなってしまう。自分は、大師の文章の散佚することを残念に思い、近くにお仕えして、ほぼ五百編を記し集めることができた。これに唐人との贈答詩文のうち秀れたものを併せ編纂した」とあることから知られる。内容

遍照發揮性霊集(古文写本解説)

暦三年(二〇七九)仲の冬、清運(せいゆん)(二〇二五-一五一五)が佚文を拾集して『統遍照發揮性霊集補闕記』三巻を編み、十巻に復した。「照遍」とは空海の准頂号の略称で、梵語のヴァイローチャナ(Vairocana 毘盧遮那)すなわち大日如来を指し、心内の鍵を開いて文筆を揮う意、「發揮」は「易」からとつたもので「発」は発越、「揮」は揮散の意、「性霊」は天性の霊異なる意、つまり、天性の霊異を奮い起こすような空海の秀れた文章という意である。普通には略して『性霊集』として

は、第一巻は主として詩賦類、第二巻は碑銘類、第三巻は献上・贈呈の詩文集、第四巻は主として表、第五巻は書・啓・狀の類、第六・七巻は達牒文・願文、補闕記第八巻は願文・達牒文・表白文、第九巻は奏狀・啓白文、第十巻は詩・讀などの雑類を、おのおの集成したもので、現存本には一一三篇の漢詩文を収めているが、空海の商品として確実なものは一〇八篇である。

伝本は写本・刊本ともかなりの数にのぼるが、本学図書館所蔵の『性霊集』

十冊は、巻第一〜九は室町中期頃の写で同筆、筆者不詳、巻第十は江戸中期の元文四年(二七三九)清浄心院竜純の写で、映入り、粘葉装。書型は縦二四・九×横一五・三〇日、表紙は薄藍色の斐楮混漉紙に楮紙で裏打した厚紙、本文は厚手の楮子に空押の界線を施し、一面六行、一行約一四字詰め、墨付は一八〜四八校で不同、かなりの虫損がある。巻第三の識語から快賢写の高野本の転写本であることが知られ、また、巻第十のそれには本書が竜純の手に渡ったときには、巻第九までしかなかったもので、その闕を補った旨記されている。本書の系統は巻第八の錯簡から流布本系統と云える。

『性霊集』の注釈書も多数存在するが、本学図書館(井上円了文庫)には実翁の『性霊集鈔』十巻十二冊(寛永八年再板本)、『性霊集鈔序解』一冊(元禄十年刊)、『性霊集便蒙』十冊(延宝三年刊)、泰音の『性雪集便蒙鈔』十巻十八冊(第一冊欠・刊年不詳)、『性霊集考語』四冊(元禄十二年刊)などが収蔵されている。

写真は、『性霊集』の巻第一、序文の冒頭と、巻第三の冒頭、弘仁七年八月十五日、嵯峨天皇の勅命により、屏風に一詩を書き献上したときの上表文と詩の初めの部分である。

寄 贈 図 書

43. 4 ~ 5. 17

書 名	寄 贈 先
国防研究院図書館図書目録 第1輯	
国防研究院図書館図書目録 第2輯	
国立国会図書館蔵書目録 昭和23~33 書名索引	
大都市比較統計年表 昭和41年	大都市統計協議会
尼崎市史 第2巻(2冊)	尼崎市役所史編集事務局
経営情報システムの研究(5冊)	東洋大学附属電子計算機センター
第18回東京都統計年鑑 昭和41年	東京都総務局統計部集査課資料室
防衛年鑑 1968	防衛庁長官官房広報課
放送関係文献総目録	放送文献総目録作成委員会
日本ベンクラブ三十年史	日本ベンクラブ
漢文資料編集会議編 太史公自序報任安書	大 安
" 六朝志怪小説	"
" 樂府詩	"
神奈川県立図書館蔵書目録(和書の部第4)	神奈川県立図書館
愛知図書館参考図書目録追録3	愛知県文化会館
神奈川県関係新聞記事索引第6集	神奈川県立図書館
増加図書目録 昭42. 1~12	運輸調査局
史料館所蔵史料目録 第14集	文部省史料館
日本福祉大学附属図書館 増加図書目録	
法華経の構造	田 沼 文 彦
北海道所蔵簿書件名目録 第2部	北 海 道
児童相談所におけるケースワーク過程に関する研究	東京都民生局厚生部福祉研修課
東京商科大学図書館 オットーフォンギルケ文庫目録	東京商科大学
潮海史の諸問題	鳥 山 き く
昭和41年工業統計調査報告	東 京 都
学校教育統計調査報告	"
富山県法人企業統計調査報告書	富 山 県 庁
昭和43年度第30版日本実業商工信用録	
証券投資信託年報	東京証券会館
禾 山 詩 鈔	黄 錚 敬
新収洋書総合目録 1965	国会図書館
(5 月 分)	
霞ヶ関ビルディング	三井不動産
超高層ビル	"
Apleistocene Fossil Papilio From Shiobara, Japan	ふじやまいくのり
学校図書館運営についての実証的研究	恵 泉 女 学 園
恵泉女学園図書館実務の手引	
夫婦道(高橋正雄著作集第4巻)	金 光 教 本 部
一筋のもの(" 第3巻)	"
歴史の研究 第6巻	「歴史の研究」刊行会
選挙に関する世論調査 昭和42年	東京都選挙管理委員会
大阪府貿易業態統計 昭和42年	大阪通商産業局
郵政百年史 第9, 14, 15, 17, 18巻	郵政百年史編集室
近代の奈落	桶 谷 秀 昭
昭和40年度国勢調査報告, 第6巻	総 理 府 統 計 局
" 第8巻 茨城県	"
" 第9巻 栃木県	"
" 第10巻 群馬県	"
" 第14巻 神奈川県	"
" 第20巻 長野県	"
" 第21巻 岐阜県	"
" 第24巻 三重県	"
" 第25巻 滋賀県	"
" 第26巻 京都府	"
" 第29巻 奈良県	"
" 第30巻 和歌山県	"
" 第34巻 広島県	"
熊本放送文庫	熊 本 放 送
近代先哲碑文集 第13	亀 山 隼 三
西ドイツ生命保険の現況	生命保険文化研究所
国立国会図書館分類表(総索引)	
根岸家文書目録	埼玉県立図書館

化学のA先生は助手のB君と共に、これまでの研究成果を基礎に、新しい実験に取り組むことになった。まずその分野で定評のある○○著の……一九六四年までの関連のある内外の研究結果について確かめる、またこれに関連するいくつかの化合物については *Beilstein* で一九一一年までの研究結果を調べる。その後現在までの文献も従来の研究に関連して主要な論文には目を通していき、さらに図書館に來ている雑誌は勿論、少くとも日本で入手できる雑誌に出る論文の題目は一応カードで整理してある。これには次のようなカクラリがある。本大学の図書館は国会図書館および他の主要大学図書館と契約して、各館分担の雑誌をきめて、その目次を、雑誌到着毎に相互に配布している。そして大学内では各教員は自分の必要とする雑誌のリストを図書館に出しておく、図書館から自動的にリストにある雑誌の各号の目次の写しが送られてくる。だからA先生とB君は、その研究に関係のある論文が出そうな雑誌一〇〇種以上の目次には目を通して、それにチェックを出すと、図書館のサービス課でカードを作ってくれる。さらに詳しいデータが必要などときは、たとえ本大学にはない雑誌でも、さきほどのルートでコピーを送ってもらえるから、このカードに必要なデータを記入し、パンチすることができる。

しかしこれでも調査もれがあるかも知れないので *Chemical Abstracts* の索引を活用して詳しく調べ上げる。ただし *Chemical Abstracts* の索引は最近では論文の数が多いため一年半から二年位遅れることがあるので、本学の図書館では最近開発された読字機を使ってある特定の数個の語が同時に出してくる *Abstract* 又は論文を選び出す装置がある。これに一冊の雑誌を入れると頁を繰るの一秒、読むのは開いた頁を千分の一秒という速度で読んでくれる。勿論何頁から何頁までとか、分類の第何部だけと云うように指定もできる。これは更に改良して頁を繰る速度をもっと上げることにも可能だと云われている。なお *reference Journal* としてはこの他にも速報的なものや、ある区域で発行された文献を特に詳しく網羅しているものがある。A先生はこの方法で全く独立にソ連のカザックの大学で同じような研究が行われていたこと、イשראלの大学でやはり似たような一連の研究が行なわれていたことを知ることがある。又B先生のところへ、「*Chemical Abstracts* による○○

図書館にかける夢

という物質については貴方が合成した報告しかないが、もっと詳しい合成法を知らせてほしい」という手紙が来たこともある。

こうしてはじめに充分調査しておく、無駄のない実験計画を立て、能率的に研究を進めることができる。たとえばある目的で作った物質が新化合物であるときは、それがどんな構造であるかを証明するだけでもかなりの手間と金がかかるものであるが、既に文献にある物質ならばいくつもの簡単に測定できる物理的性質が一致すれば非常に大きい信頼度でこれを認定することができる。

浩

川
(工学部教授)

及

さて実験がはじまって一段落つくと、それまでのデータとそれに関する考察を、かなり大胆な仮設でもかまわないから書いて、国内あるいは国外の何人かの同業者に送る。これも図書館でタイプを打ち複写して、リストにある同業者に送ってくれる。黙殺する人もあれば反論してくる人もあろう、さらに良い示唆を与えてくれる人もある。こういう反響を取り入れながら研究を進め、最後に論文を書くことになる。

結果をまとめて論文を書く段階で、この間に発行された *Chemical Abstracts* をもう一度検討する。このようにして図書館は研究に必要な資料を短時間に完全にリストアップしてくれるし、研究に必要な事務もやってくれるのでA先生とB君は安心して研究に専念することができるのである。

大学における図書館の機能、存在意義は広範なものであるが、ここでは理工系の研究という面に限ってほぼ満足と思われる図書館の未来像の一例を書いて見た。ただし未来像と云うのは現在の姿と対比するから出てくることばであって、やる気になればかなり近い将来にも可能なことである。大学が研究と教育の場であるということばが単なる掛声でないならば、このような一面のみならずあらゆる面で図書館を理想的なものに近づけることは不可能ではないと思うのだが。

古書の即売展から

五月二十四日から、池袋・西武を会場に古書の即売展が開かれました。戦後最大といわれただけあって、会はなかなかの盛況でした。「……先客は、朝の三時から並び、午前九時には千名近くになつた……デパートでは開場を二十分程繰上げ……」というニュースは、多少事実に反するけれども、雰囲気としてはそのようなものでした。

このように規模の大きい即売展には、地方の図書館員が、飛行機でやって来て小切手をきるんだときいたことがあります。蒐書家といわれる人達は、その位の負担をいとわないうし、いざとなれば、自分の私財をたたき売ってでもということはいやかりかねない人達ですから……。

私の目的は二次資料の蒐集で、とくに長期間補充のきかなかつたものということでした。事前に図書館や愛好者宛に配られた目録で主務担当者が選択し、私はその使い走りにすぎなかつたのですが、それでも番号や書名を記録し、幾度も復唱しながら、その場で入手出来る確率な

どを考えていると、どうも落着かないことでした。ところが、会場へ着いてみると他の方々も同じようにメモ・カードをふりかざしており、なかには、コピーされた用紙を分担し、アミの目をはるようには驚きました。通りがかりの客が「なんの客か？」と守衛にたずね、「本を買うお客様だ。」という返答にめんくらっているというようなこともありました。

詩集や小説の初版本をあつめに来た人々、原稿や写本を買う人々、索引や書目を探す図書館員など、人によって目的はさまざまですが、その姿はいずれもノミの市に集る主婦の姿にも似ていました。

誰れもが手にとつてみるものの中には、詩集や小説の初版本がありました。が、いずれも高価でした。そういうものを図書館で集めたらという意見もありましたが、趣味的な要素が多く大変予算を喰います。文献の蓄積度が低い図書館では、とうていおぼつかないことで、この類はすでに豊富なコレクションを持つ図書館におまかせし、私達は相互貸借など

の制度を利用して共有される方が望ましいとおもいます。

同じように高価な文献として、限定本や紀要のバック・ナンバーなどがありました。この中には、研究書や研究論文などの商業ベースにのらないものが多く、発行当初は、寄贈交換などの手段で、タダのように入手出来たことを考えると、残念におもいました。

とかく予算がない、予算がないということで、金さえあれば蔵書がふえ、図書館もよくなるかのように錯覚することがありますが、大切なのは良いコレクションを持つことです。無駄使いをしないで役に立つコレクションを持つことも考えたら良いと思います。時期さえのがさなければ、企業史、労働運動史、統計書などの資料群は、そのようにして集められたのに、今となつては多額の予算を計上してもおぼつかないことです。

このような即売展が企画され、貴重な資料が入手出来る機会がふえたのはありがたいのですが、かつては二束三文だったり、無料で入手出来た資料が、今、商品として市場に出され、その上、社会的な関心の下にどんどん値上りしているのを見ると、これでよいのかな、という疑問も残りました。

(M)

下半期古書展開催日程は下記の通り 会場 東京古書会館(神田)

	第1 金土	金 2 金土	第3 金土	第4 金土	第5 金土
7 月	書窓会	愛書会		趣味展	
8 月				ぐろりあ会	和洋会
9 月		書窓会	愛書会	趣味展	
10 月	和洋会		城南古書会	ぐろりあ会	青空展 10.28~11.2
11 月		神田二世会	愛書会	趣味展	書窓会
12 月	和洋会		ぐろりあ会	新興古書会	

昭和42年度館外帯出力一ト登録者統計

[閲覧係]

	文学部		経済学部		経営学部		法学部			
	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部		
学生数	2,337	618	1,776	1,256	2,931	300	2,257	824		
登録者数	866	149	336	54	251	26	355	51		
登録率	37.1	24.1	18.9	4.3	8.6	8.7	15.7	6.2		
合計	学生数		2,955		3,032		3,231		3,081	
	登録者数		1,015		390		277		406	
	登録率		34.3		12.9		8.6		13.2	

社会学部		短大		大学院	その他	合計	
1部	2部	1部	2部			1部	2部
1,293	480	1,066	285	164		11,824	3,763
400	92	288	109	42	*46	2,584	481
30.9	19.2	27.0	38.2	25.6		21.8	12.8
1,773		1,351		164		15,587	
492		397		42	*46	3,065	
27.7		29.4		25.6		19.2	

* 印は通教(36) 工学部(4) 聴講生(5) 校友(1)の合計

図書館に入館して最初に感ずるところは、その室内のふんいきと清潔さである。周囲の壁にある絵画の中、キリストの絵画が何んとなくさびしく、暗い。もう少し明るい自然の美とか、緑と川、木々と鳥のような絵画を入れてほしい。

学生の投書から

「学生新聞」が「祖国と学問のために」の新聞を入れて下さい。

勉強したくとも、いすがないの
で、立つてはなくてはならないのが
残念。いすをふやして欲しい。

雨の日など、いっぱい、勉強できませぬ。前のあいてる、つくえのまわりにでも、イスをふやして下さい。

日曜、祭日、春・夏・冬の各休みにも、せめて一室だけでも通常通り開館をお願い致します。

投書は昭和四十二年十二月～昭和四十三年五月迄の中から

図書館関係諸会議

- 図書館建設準備委員会(第15回) 43.5.10(金) 来賓室
 議題: 1) 新図書館設計図の検討
 2) その他
- 図書館選沢委員会(43年度第1回) 43.5.17(金) 来賓室
 議題: 1) 図書選沢について
 2) その他
- 図書館建設準備委員会(第17回) 43.6.15(土) 来賓室
 議題: 図書館建設に伴う答申案について
- 図書館建設準備委員会(第16回) 43.4.19(金) 来賓室
 議題: 1) 新図書館設計図の検討
 2) その他
- 図書館運営委員会(43年度第1回) 43.4.30(火) 来賓室
 議題: 1) 昭和43年度図書購入予算について
 2) 図書館建築について
 3) その他

類 縁 機 関 案 内 (3) 参 考 係

資料調査に當って利用しうる各種の図書館及び類縁機関のうち、主要なものから紹介して行きたいと思います。

名 称	所 在 地	電 話	交通機関	利用資格 (入館料)	開館時間	休館	資 料	備 考
通信総合博物館 図書室	千、大手町二一	(七〇) 三六三〇	(地) 大手町	一般	九一六、三〇	月	通信関係一八、〇〇〇冊	「通信総合博物館のお知らせ」(月刊)
東京アメリカ文化センター	千、永田町二二〇 山王グランドビル	(六六) 六六一一	(地) 赤坂見付	一般	九三〇一八、三〇	日米の祭日	アメリカ関係図書五冊	貸出は登録制二一、六〇〇冊
東京商工会議所 図書室	千、丸の内三一四 商工会議所内	(四四) 四四一	(都) 馬場先門	一般	九三〇一六、三〇 (土一二)	祭日	両工業一般洋書約二万冊	全体で約一十一万冊
東京商工指導所 図書室	中、銀座東二八中 小企業会館内	(五三) 〇二五一	(国) 有楽町	一般	九一七(土一二)	祭日	両工業一般	先に相談部調査広報係へ
東京ゲート協会 図書室	千、上通り四一三二 同協会内	(四三) 〇八二八	(都) 上通り	一般人	九一六	祭日	ゲート関係図書二五、〇〇〇冊	他に二万点を展示(三〇四ヶ月毎)
東京大学新聞研究所 プレスセンター	文、本郷七三一一 東大内	(二二) 一〇一	(地) 本郷三丁目	一般	九一七(土一二)	祭日	中小企業技術資料	
東京都立工業奨励館	港、海岸通一七	(四三) 四二七一	(国) 浜松町	一般	九一七	祭日土	東京都刊行の資料 一、五〇〇冊	貸出あり「都市紀要」(年二回)
東京都広報室 及課都政案内室	千、丸の内三一都 庁第一庁舎内	(三三) 五一一	(国) 東京	一般	九三〇一六、三〇 (土一二)	祭日	東京関係資料	
東京都電気研究所 所付属電気博物館 図書室	千、有楽町二一五	(二〇) 二二八一	(国) 有楽町	研究者	九一六、三〇	祭日	電気関係バックナンバー	
東京都都政資料館	新、若葉町三一六	(三五) 三九七七	(国) 信濃町	一般	九三〇一六、三〇 (土一二)	祭日	東京関係資料	
東京ドイツ文化研究所	港、赤坂台町二	(五八) 六三六九	(地) 赤坂見付	一般	九一七	日独の祭日	ドイツ一般	
東京文化会館音楽資料室	台、上野公園内	(八六) 二二一一	(国) 上野	一般	一二二〇	祭日二六日	レコード、楽譜、図書	八月中休室あり
東 書 文 庫	北、堀船町一一二三 東京書籍内	(九九) 一一八一	(国) 王子	一般	九三〇一六、三〇	祭日	教科書関係資料	「東書文庫教育図書目録」一〇四
遠山音楽財団法人 書室	港、広尾二一六一 一三	(一一) 一一三	(地) 王子	一般 普通 学生	一〇、三〇一七、三〇	祭日	音楽史、音楽関係資料	昭和四二・一〇・一開室予定
特許庁資料館	千、三年町一	(五八) 一一〇一	(地) 虎の門	一般	九一六、五〇 (土一二)	祭日	工業所有権公報特許	一四五、〇〇〇冊
都立近代文学博物館	目、駒場 元前田候 邸	(五三) 〇一〇一	(井之頭) 駒場東大前	一般	九二〇	祭月一四日	開館準備中	
都立日比谷図書館	千、日比谷公園内	(五三) 〇一〇一	(国) 有楽町	一般	九二〇			
内閣文庫	千、皇居大手門内	(三三) 〇一七	(国) 東京	許可制	九一六	祭日	幕府、明治政府の集書	「内閣文庫漢籍分類目録」 「内閣文庫国書分類目録」
日・仏会館図書室	千、神田駿河台二 三日仏ビル内	(五九) 一一四一	(国) お茶の水	一般	一〇一八	祭日	フランス関係図書雑誌 二四〇〇冊	貸出は会員登録制